

慈 恵

めぐみ

鎮西敬愛学園通信

No. 81 2020 年 冬号

敬愛幼稚園／敬愛中学校／敬愛高等学校

〒 800-0035 北九州市門司区別院 6 番 1 号

中・高 TEL 093-381-3537 FAX 093-391-8049

幼稚園 TEL 093-371-2267 FAX 093-391-9385

敬愛小学校

〒 800-0057 北九州市門司区大里新町 1 1 番 7 号

TEL 093-381-0611 FAX 093-381-0601



吹奏楽部 創部 10 年記念演奏会後の集合写真

いっしょ

壁を築くのではなく

橋をかけよう

レオ・バスカーリア

人はそれぞれ、自分だけの人生を歩む過程において、他者とは違う「私」を作り上げていきます。その結果、地球上では、考え方も能力も姿形も、何もかも違うもの同士が共に暮らす多様な社会が成立しました。しかし私たちは、そこに私と同じ人など一人として存在しないことを知りながら、時に自分とは違うものを否定したり排除したり・・・知らず知らずのうちに、「私」を守るための壁を周りに築いているのかもしれない。

その壁が、私の存在を確かなものとし、生きる拠り所となることもあります。ただ、自己にとらわれるあまり、壁が高くなりすぎると、他者との関係が断ち切れ、相手のことが見えなくなるのではないかと思います。人類が、いつの間にか地球上に国と国とを隔てる壁を築き、国境線を引いたように、人と人との間も、見えない壁によって距離が生じてしまっている現状があるのではないのでしょうか。

壁を完全になくすることはできなくても、私を取り囲む壁が低くなれば、相手の顔が見え、声が聞こえ、同じ景色を見ることができるようになります。さらに、相手との間に橋をかけることができれば、お互いの世界への行き来が可能になり、今まで知らなかった世界が開けてくるはずです。私の生きる世界は格段に広がり、豊かなものとなるでしょう。

同じ時代、同じ地球に生まれた私たち一人ひとりが、お互いにかげがえのない尊い存在であるという事実を確かめながら生きていくことが、誰もがつながり合い支え合える平和な世界を実現するための橋渡しになるのではないかと思います。

敬愛高等学校

第70回卒業証書授与式

（浄土真宗本願寺派前裏方様）お言葉（

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。ご家族の皆様のお喜びもさこそと拝察致しまして、心からお祝い申し上げます。おめでとうございます。

卒業生の皆様は、敬愛高校でお釈迦様の言葉を聞き、親鸞聖人のお教えに触れ、ご自分の心を見つめ、育ててくださいました。現代社会は、地球温暖化や経済格差、生命科学など、はつきりとした正解が見つからない問題に直面しています。皆様には、すぐに古くなってしまうような知識ではなく、問題解決に取り組む意欲や思考力、判断力、表現力を、これから伸ばしていかなければなりません。それには失敗を恐れないことです。ことわざにも「失敗は成功のもと」といいます。人工知能の研究者の黒川伊保子さんは、「失敗

は避けるものではなく、歓迎するもの」と書いています。発想力がある、展開力があるといった能力は、成功事例の上書きでは手に入らない。自ら失敗して痛い思いをすることで脳のなかに神経信号が行きにくい場所ができて、反対に信号が行きやすい場所が浮き立ってくる。必要な時に使うべき回路がとっさに決まるそうです。

昨年、ノーベル化学賞を受賞した吉野彰さんも「失敗しないと絶対に成功はない」と話しています。その失敗を恐れずに人生に取り組む根底には、自分自身に対する信頼感が必要になります。それは、礼拝や宗教の時間に手を合わせた時、阿弥陀如来様という人間を超えた大いなるものによって生かされていること、「大丈夫、大丈夫」と支えられていることを感じることにによって培われたことでしょう。

詩人の坂村真民さんは、

光る 光る すべては光る

光らないものは ひとつとしてない

みずから光らないものは

他から光を受けて光る

と詠いました。阿弥陀如来様は、利己心を離れられない私、自分の思い通りにならないことに苦しむ私、場合によっては自分を見失い、何をしてしまうか分からない危うい存在の私を、「闇を抱えているからこそ光を当てて救わずにはおれない」と、ご本願を起こし、南

無阿弥陀仏のお名号となつてはたらいいてくださいます。

親鸞聖人はご和讃で、現代語訳では、「阿弥陀仏の慈しみの光は広くあらゆるものを照らし、その光の至り届くところでは、全てのものが喜びの心を得る、と言われている。大いなる安らぎと慰めを与える阿弥陀様の教えに従うのがよい。（※）」とお示しになりました。「必ず衆生を救う」という阿弥陀如来様ご自身の安心の光が私に射してくると、その安心が私に移り、私共の心も不安や恐れから自由になり、生かされていることを喜ぶ世界が開かれます。

卒業しても、手を合わせるひと時を持ち、ご自分を見つめると同時に、阿弥陀如来様のお救いの中にある安らかさを感じ、自分で考え、動き、多様な価値観の人々と、互いに敬い協力して、問題の解決を図る社会の一員として活躍くださることと期待致し、お祝いと致します。

（文責 鎮西敬愛学園）

註（※）

慈光はるかにかぶらしめ

ひかりのいたるところには

法喜をうとぞのべたまふ

大安慰を帰命せよ（浄土和讃）



答 辞

木々の枝先に春の訪れが待ち遠しくなった今日、私たち161名は、敬愛高校から旅立つ日を迎えました。お忙しい中、ご臨席を賜りました名誉学園長様をはじめ、ご来賓の皆様、先生方、保護者の皆様、在校生の皆さん、このような盛大な式を挙げていただき、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

思い返せば三年前の春、私たちはこの別院で出会いました。新しい仲間と迎える高校生活。期待で胸が膨らみながらも、少し不安を抱えていました。その後の宿泊研修。まだ、クラスに馴染めない人もいる中、全員でひたすら規律訓練に臨んだことを覚えています。何度も何度も挑戦することで、気づけばそこには絆が生まれていました。

二年生の修学旅行では、友人の新たな一面を発見することができました。カナダの自然



に囲まれたキャピラノ吊り橋や街並み。アメリカでのマリナーズの球場や、ボーイング社の見学。吊り橋を揺らしてはしゃいだり、荷物を詰めるのが大変になるほどたくさん買い物をしたり、海外ということもあり、のびのびと楽しむ姿が印象的でした。

今まで築き上げた絆を発揮した、最後の体育大会。最高の思い出にしたいと、一人ひとりが一生懸命取り組みました。応援団や実行委員会の活動で、思い通りにいかないことや気持ちのすれ違いが生じ、つらい思いに涙することもありました。しかし、お互いに正面から向き合うことで、仲間の思いを理解し、心を一つにすることができました。当日の、みんなの笑顔や感動を忘れることはできません。どんなに大変なことも、協力することで乗り越えられました。

また、私は生徒会長として、さまざまな経験をしました。数年ぶりに実施した生徒総会は、特に私の心に残っています。手さぐりの進行でうまくいかず、全体をまとめることは予想以上に難しいものでした。挫折してしまいそうな時に、多くの人の優しさや応援に気づくことができました。

在校生の皆さん、どんなときも皆さんの笑顔が、私たちの力となりました。卒業まで時間があると思っているかもしれませんが、三年間はあっという間です。今ある時間を大切にしながら、高校生活でしかできないことをしてください。困難にぶつかることがあるかもしれませんが、先生方や家族、友達など多くの人が見守ってくれています。皆さんが笑顔でいてくれることが私たちにとっての幸せ

です。今までありがとう。

次に、私たちを指導してくださった先生方。厳しい言葉を素直に受け入れられないときもありました。それでも先生方は、常に私たちのことを一番に考えてくださいました。私たちの相談にのってくださり、入試前日には、「いつてらっしゃい」と背中を押してくださいました。先生方の温かい言葉が、私たちに自信をつけてくれました。これからは、先生方に教わったことを胸に刻み精進していきます。ありがとうございました。

そして、私たちの一番の理解者である、お父さん、お母さん。今日まで育ててくれてありがとう。自分の望むことをしなさいと、私の意思を尊重してくれたお父さん。仕事で忙しいにも関わらず、お弁当を作ってくれたお母さん。家族の支えがあったからこそ、最後まで自分の目標に向かうことができました。言い尽くすことができないほど感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。これからも、迷惑をかけるかもしれませんが、自立できるよう努力していくので、よろしくお願いします。



最後に、三年間を共に過ごした卒業生のみんな。嬉しいとき一緒に喜んでくれた。泣いているとき一緒に泣いてくれた。励ましてくれた。教室に行けば、自分の居場所があり、包み込んでくれる仲間がいる。だから、決して一人ではないと感じられました。共に試験勉強に追われた日々も、今となってはいい思い出です。まだまだ、みんなと一緒にいたい。毎日教室で交わした何気ない会話が、もうできないと思うと寂しく感じます。みんなとの出会いは、一生の宝物です。ありがとうございます。また会おうね。

今日で、私たちの高校生活が終了します。三年前の春と同じ場所、あのときはまだ想像もしていなかった夢が、今では鮮明に見えています。これから先、別々の道に進むことになりましたが、それぞれが選んだ道を一歩一歩確実に歩んでいきます。最後になりましたが、鎮西敬愛学園の益々の発展と皆様のご健勝をお念じ申し上げ、答辞とさせていただきます。

令和2年2月15日

卒業生代表 山本 桜菜

第2回KEIAI EXPO

11月9日(土)、第2回KEIAI EXPOを開催しました。昨年度より、子どもたちが日頃の学習成果を活かし、校訓のひとつである「創造」を体现できる場を設定しようと、このEXPOをスタートしました。各学年ごとに次のテーマで準備に取り組みました。



- (1年) 音読発表
- (2年) 生活科で育てた野菜販売
- (3年) KEIAI GUIDE (受付・校舎案内)
- (4年) 知的書評合戦(ビブリオバトル)
- (5年) ドローンを使ったまちづくりのプレゼン
- (6年) 英語カフェ

どの学年も、協力・協働しながら、新しいアイデアを形にし、素晴らしい発表となりました。

また、学校保護者会にもご協力をいただき、バザーやブックヘルパーのお母様の読み聞かせ、理科実験や点字体験、小倉織体験と内容盛りだくさんの1日になりました。

子どもたちからは、「時間があつという間に終わりました。」「来年はこんな取り組みをしてみたいです。」と充実した時間になったようです。



特集 敬愛の教育 伝統文化を学ぶ

本校では礼法指導の一環として、お茶の作法を学ぶ場を設定しています。そして、開校以来、学年ごとにテーマを設定し、保護者を招いたお茶会を開催しています。一つ一つの作法が加わり、6年生では、自分たちでお茶会をプロデュースするまでに成長します。日頃なかなか伝えることができない「ありがとう」の気持ちを、お茶を通してお伝えしようと子どもたちと毎年稽古に励んでいます。

今年も1・3学期に学年ごとにお茶会を設定し、お茶会を開催しました。1月には、6年生の小学校生活最後のお茶会が開かれました。6年生は、2学期に自分たちで作成した抹茶茶碗を使用します。6年間学んできた一つ一つの作法に気をつけながらお茶を点てる姿に、子どもたちの成長を感じました。

保護者の方からも「最後のお茶会だと思いと寂しいです。でも、子どもたちが大きく成長したと感激しました。」「予想以上の立派な抹茶茶碗で驚きました。」「たくさんの感想をお寄せいただき、思い出に残るお茶会となりました。



【令和元年度企画】保護者の方へのインタビュー

冬号では KEIAI EXPO の感想をご紹介します。

★5期生の娘と一緒に行きましたが、とても羨ましがってました。子どもたちが目をキラキラさせながら活動している姿が、とても印象的でした。

★ドローンやアプリを活用する発想や、最近の世の中での出来事を真剣に考える機会など、自分が子どもの頃には無かった事でとてもびっくりしましたし、プレゼンテーションもよく出来ていてわかりやすかったです。

★緊張感あり娯楽ありで、この日に向けて準備や練習した様子が伝わってきました。皆で1つの事に向け、協力し達成する喜びを感じながら良い経験をさせて頂いていると思いました。ありがとうございます。

★iPadを使ってレシピを調べたり、お金の計算をしたり、敬愛小ならではの工夫が見られてとても良かったです。

★iPadを使った環境問題(ドローンを使用し対策)への取り組み。大人のプレゼン並の出来映えで驚きました。

★自分達で、育てた野菜を売ってお金になるということが、お金の大切さを感じてとても良いと思いました。実際に家庭でも子どもから「一生懸命育てないと、買ってもらえないかもしれないから」と、「買ってもらうのはどうしたらいいのか? 買ってもらいたい!」を考えてると感じました。

★6年生のカフェの前のスクリーンが、レベルが高くて驚きました。

★4年生のビブリオバトルを見ました。子どもたちが緊張しながらも、自信をもって発表している姿を見て、日頃の熱心な学習活動の様子が思い起こされて、とても嬉しく思いました。発表の中でクイズを出したときに、笑い声や歓声が湧き起こったり、自然と拍手が鳴ったりして、子どもたちの元気な笑い声が響いていたのも、とても微笑ましかったです。4年生の頑張り、先生方の温かい眼差しに、胸がじんとなった一日でした。

★1年生の発表が、どちらのクラスも、とても可愛らしかったです。子どもたちの元気のいい声や、達成感のある笑顔、そして何より、担当の先生方の温かいまなざしが教室中に広がっていて、とても素晴らしい発表でした。子どもたちがのびのびと活動する姿を見て、先生方への感謝の気持ちでいっぱいになりました。



幼稚園通信

成道会発表会がありました

お釈迦様がお悟りを開かれた日の12月8日成道会をご縁に、敬愛幼稚園の成道会発表会が行われました。おうちの方にアレンジしていただいた衣装を身にまとい、自信たっぷりにかわいいお遊戯をステージで発表し、合唱や楽器の演奏、英語での発表も行いました。年長さんは開園当初から続く親鸞様の劇を頑張りました。長く、使い慣れない言葉の多いセリフに苦勞しながらも、練習を重ねるたびに上手になり、本番では全員が立派にやり遂げました。人前に出て、ステージに上がり大きな声を出すことは大人でも恥ずかしいものですが、心から勇気を振り絞り、観客に感謝を届けることができた経験は、大きな自信につながったことと思います。



当日は、日ごろたくさんの愛情を注いでくださる、お祖父様とお祖母様をご招待し、お孫さんの成長を見ていただきました。感動で涙を流されたり、「楽しかった、可愛かった」と喜ばれたり...保護者の方のみではなく、有縁の多くの方々に敬愛幼稚園は支えられていることを再認識し、感謝の気持ちでいっぱいになった成道会発表会でした。



楽しかった交流会

年間を通し、数回にわたって交流を深めてきた、幼稚園年中、年長児と、高校3年生との交流会。幼稚園の子どもたちは、毎回楽しみにしてきました。回を重ねるたび、親密になり、たくさん遊んでくださる高校生のことが大好きになっていました。親子の関係でもなく、友だちの関係でもない。ちょうどその間の、なかなか出会わない年のお兄さんお姉さんとの関係を持つこと、やさしく接してもらえる体験をすることとは、幼稚園児にとって、今後コミュニケーション力を育んでいく上でとても大きな役割を担っています。学園であるからこそその大きな特徴の一つです。そんな大切な経験も、3年生の卒業と同時に別れの時がやってきました。卒業式の前日、リハーサル忙しい中を、幼稚園



の子どもたちに会いに来てくれた高校生。子どもたちは、準備をしていた手作りのフォトフレームに、1年間一緒に過ごしたベアの高校生と自分が一緒に写った写真を貼ったものと、歌のプレゼントをして、新しい進路へ進んでいくお兄さんお姉さんにエールを送りました。



マラソン大会がありました

1月にはマラソン大会を行いました。毎日登園後に、園庭を走り強い体づくりを目指している子どもたちですが、いつもの頑張りをマラソン大会で発揮しました。今年は例年と違い、園庭やグラウンドを数周走ってゴールを目指しました。一人ひとり、自分のペースで、精いっぱい走りを見せてくれて、応援する方も力が入りました。全員見事完走！自信に満ちた子どもたちの表情が印象に残りました。

マラソン大会が終わっても、まだまだ、毎日のマラソンは続きます。強い心と体を磨きます。

修園旅行に行ってきました



2月14、15日年長さんは修園旅行に行きました。前日までたくさん雨が降り当日予報も雨と、心配されていたのですが、とても良いお天気に恵まれ、コートも必要ないほどの暖かさで、十分に楽しむことができました。秋吉台サファリランドでは、たくさん動物に、バスの中で大興奮！ダチョウが通路をふさいでしまつて大笑いしたり、チーターに手を振つたらこっちを見てくれたりと、楽しい時間を過ごしました。宿泊先の西長門リゾートホテルでは、美しい夕日をバックに貝殻拾いをし、テーブルマナーを学んで、フォークとナイフを使ってご飯を頂きました。大浴場でお風呂に入り、ビンゴゲーム大会で盛り上がり、1日たっぷり遊んだお陰で、夜はおうちの方を思いうす間もなくあつという間に寝てしまいました。翌日は角島大橋を渡り、角島自然館で角島について学んで、心にとくさんのお土産を持って帰りました。幼稚園時代の楽しい思い出のひとつとして残ってくれることでしょう。





「別院の境内にて」

昨年の長期予報で、この冬は暖冬になると報じられました。菜の花とタンポポが咲いたニュースは一月中旬のこと。鎮西別院の桜はいづ開花になるのだろうと気になります。

さて、親鸞聖人の幼少期について少し触れます。聖人は栄華を極めた藤原氏の末流の出身でしたが、聖人がお生まれになる十数年前より、世の中は藤原氏を中心として長く続いた貴族政治が没落し、政権を取った平家の武家政治に変わっていく動乱期でありました。藤原氏の流れを汲む日野家は、深い苦悩の中で父の日野有範公の出家により伯父に引き取られ、後に四人の弟方も出家の道を歩むことになり、聖人は幼くして家族と離別することとなるのです。

さらに、聖人が四歳の春と七歳の秋には京都を大地震が襲い、五歳の春には京都の街の三分の一が焼失する大火に見舞われ、聖人出家の年には四万人以上が餓死する大飢饉と、それによる疫病の流行もあり、まさに動乱と天災地変による生死の不安の中に聖人は身を置かれていました。

聖人は御年九歳の時、伯父の日野範綱公に連れられて京都東山の青蓮院を訪ね、天台座主である慈円僧正（慈鎮和尚）のもとで得度されました。訪れた際には日が暮れていたもので、得度の式は明日に行いましょうと言われましたが、明日まで待てない聖人は、ご自身の気持ちをこのように詠まれました。

明日ありと 思う心のあだ桜
夜半に風の 吹かぬものは
（綺麗に咲き誇っている桜を眺め、この桜の花は今日と変わりがなく、明日もまた美しく咲いているだろうと思っているかもしれないが、夜中に強い風が吹けば、たちまちに散ってしまうかもしれない。）

聖人は、ご自身のいのちを桜の花にたとえ、明日は自分のいのちがあるかどうかはわからない。だからこそ得度の式を先延ばしにせず、今の瞬間を大切にしたいと思われたの

でしょう。

先日のこと、あるご門徒さんが御本山の西本願寺に参拝し、その後大谷本願で亡きご家族の納骨をする予定になっていました。その方の出発前夜、私は行程確認のために電話で連絡を取りました。その会話の中で、私が大谷本願で納骨するための書類を渡し忘れていたことに気づき、慌てて書類を用意し、翌日御本山でお渡しする約束をしました。書類がないと納骨は出来ません。お申し出を受けてすぐに作成して渡していけば、ご門徒さんは不安を抱かずに済んだのです。大変申し訳ないことを致しました。

聖人の句は、知らず知らずのうちに先があることを前提とした生活習慣がそなわっている私に向けられたものです。今何をすべきか、今この瞬間、ここにしかないいのちを大切に生きているのかと問われています。

桜の咲き誇る様と散りゆく様を眺め、別院の桜もまた、聖人お得度時のお心を私たちのために、無言の說法として説き続けているのではありません。

吹奏楽 10年記念演奏会

吹奏楽部は、2010年（同好会の発足は2008年）に部として活動を始め10年目になります。その節目を記念して12月23日（月）に学校の礼拝堂で記念演奏会を開催しました。年末の平日、夕方の忙しい時間にもかかわらず150名近くの方に会場いただき、本当にありがとうございました。

12年前、楽器も譜面台も、当然楽譜も何もなかった学校で発足した吹奏楽部ですが、皆様の支えがあつてここまで来ることができました。

10年前からコンクール、アンサンブルコンテストに出場し、最初の数年は銅賞。ここ数年間は銀賞が続きましたが、金賞にも代表にも一歩届かない結果でした。しかし、今年度開催された北九州アンサンブルコンテストでは、中高共に打楽器三重奏で出場し、中学生チームが銀賞ながら県大会出場の推薦をいただくことができました。10年の歳月を要しましたが、徐々に演奏活動が充実してきており、部員の努力が実った結果だと思えます。そして県大会では初出場ながら銀賞を受賞しました。

創部以来「真摯であれ！謙虚であれ！」をモットーに、音楽のある学校、楽器の音色が響く学校を目指して活動しています。多くの人の支えがあつて活動できていることに感謝し、「ありがとう」の言葉が素直に出てくる部活を心がけ、まだまだ足りてないところはたくさんありますが、20年、30年と続けていけるように、これまでに頑張ってきました。これからも今までと変わらないで指導をよろしくお願い致します。

演奏会のためにご協力いただいた皆様、ご来場いただいた皆様、本当にありがとうございました。



卒業生からのメッセージ

平成19年度卒業 西前 慶佑さん

Iベンチャー企業を

立ち上げました

在校生の皆さん、初めまして。西前慶佑です。平成19年度に鎮西敬愛高校を卒業しました。高校を卒業後、すぐに飲食業の会社に就職をしました。24歳で飲食業の会社を山口県で立ち上げ、昨年まで経営をしており、売却をしました。28歳の時に別のIベンチャー企業を北九州市小倉で立ち上げ、今に至ります。現在の仕事内容は、ネット上の解析データを踏まえた、WEBマーケティングの仕事です。Grow with Googleパートナーとして、様々な販促やマーケティング

ティング手法、システムを企業様にご提案をする仕事です。その他には、商業施設の集客イベントとして依頼を受け、色々なイベントを開催しています。具体的には、リバーウォークで「餃子リーグ」という、全国の餃子で有名なお店を集めてフェスを開催したり、熊本のグランメッセ熊本で「メガ グルメリーグ100」という、食のイベントを開催しています。

学校生活で学んだ事が

今でも生きています

10代の多感な時期に受ける刺激は、良いことでも、悪いことでも、とても貴重な経験です。

友人から「ありがとっ」や「頑張ろう」と言われて嬉しかったり、ちょっとした言葉で友人を傷つけてしまったり、そのような事の積み重ねが友人との付き合い方を学んだり、先生や目上の人との接し方を教えてくれます。もちろん、卒業しても学ぶことが途方もなくあり、学校生活の中で学んだ事が通用しないこともあります。社会に出ると、理不尽なことも多く、感情豊かに表現が出来ないこともあると思います。なので、自



分がどうなりたいかを真剣に考えたうえで、「今」を大事にして色々な事にチャレンジをしていきましよう。新しいことにチャレンジをして、成功すれば自分の自信に繋がりますし、失敗すれば悪い例を経験して、次に向けて対策を考えられます。自分の判断に迷った時には、周りの友人、先生、ご両親にいっぱい相談をしてください。必ず助けになってくれると思います。私は今でも、一人で考えるのではなくて、周りの方たちに相談をしていっぱい助けられています。限りある学校生活の中で、経験を糧にして充実した時間を過ごしてください。

高2女子 ダンス発表会

2月20日(水)の5、6限目に鎮西別院講堂にて、高校2年生女子によるダンス発表会が行われました。2学期はじめから創作ダンスを開始し、テーマや音楽、振り付けなどを自分たちで決め、当日のために練習に取り組みしました。最優秀賞を目指すことはもちろん、見ている人たちを感動させ、楽しんでもらうことを目標に、本番では各チームの個性を存分に発揮しました。たくさん保護者の方々にも観覧いただき、全体が一体となって盛り上がった発表会になりました。

(結果)

最優秀賞 微少女戦士 (2年2組)
優秀賞 混沌ノ彼方 カオスのかなた (2年4・5組)
努力賞 COLIS (2年4・5組)



表彰紹介

部・同好会

吹奏楽部

第52回北九州アンサンブルコンテスト

高等学校の部 打楽器三重奏 銀賞

高校2年 鈴木 雅也 (敬愛中出身)

高校2年 秋月 眞 (敬愛中出身)

高校2年 永島 愛琴 (敬愛中出身)

中学校の部 打楽器三重奏 銀賞

中学3年 大川 千圭景 (大積小出身)

中学2年 林田 咲 (横代小出身)

中学2年 峰 虎太郎 (足立小出身)

第13回福岡県アンサンブルコンテスト

中学校の部 打楽器三重奏 銀賞

中学3年 大川 千圭景 (大積小出身)

中学2年 林田 咲 (横代小出身)

中学2年 峰 虎太郎 (足立小出身)



報道研究部

平成31年度全九州高等学校総合文化祭 (宮崎大会)

写真部門福岡県予選

大賞 高校2年 武田 朋子 (篠永中出身)

佳作 高校2年 永津 愛梨 (湯川中出身)

第3回全九州高等学校総合文化祭宮崎大会

九州高等学校文化連盟賞

高校2年 武田 朋子 (篠永中出身)

福岡県高等学校総合文化祭写真部門

第34回 福岡県高等学校総合文化祭写真展

特選・入選 高校2年 武田 朋子 (篠永中出身)

入選 高校2年 藤田 ほの香 (横代中出身)

高校2年 金崎 みなみ (敬愛中出身)

高校2年 角川 菜奈 (松ヶ江中出身)

競技かるた同好会

第32回宇美八幡宮小倉百人一首かるた大会

E級優勝 高校2年 上大川 愛央 (敬愛中出身)

E級準優勝 高校2年 草野 真帆 (直方第三中出身)

高校1年 大谷 知菜美 (敬愛中出身)

中学2年 安達 千紗 (敬愛小出身)

第7回全国競技かるた山口大会

D級優勝 高校2年 林 亨祥 (横代中出身)

第50回全国競技かるた太宰府大会

D級準優勝 高校2年 草野 真帆 (直方第三中出身)

E級準優勝 高校1年 飯田 泉帆 (緑丘中出身)



個人入賞

令和元年度北九州地区生徒指導協議会標語コンクール

入選 高校1年 石田 陽人 (敬愛中出身)

高校1年 堀地 秀太 (敬愛中出身)

芳田司選手、オリンピック出場おめでとう!!



本校を平成25年度に卒業した芳田司選手が、柔道女子57kg級で東京オリンピック2020に出場することに決まりました。芳田司選手おめでとうございます!

2017年世界選手権で銀メダルの後、得意の内股で他選手を圧倒し、2018年世界選手権で金メダルに輝きました。これらの実績が評価され、オリンピックの出場が内定しました。2月27日には内定の記者会見が行われ、自分の柔道を突き詰めて頑張っていくとのコメントを出していました。

高校時代の芳田司選手は、柔道だけでなく、学習面や生活面でも生徒たちの模範となっていました。

予定では、7月27日(月)に57kg級の試合が行われます。敬愛から初めてのオリンピック選手です。芳田司選手の活躍を敬愛から、みんなで応援しましょう!